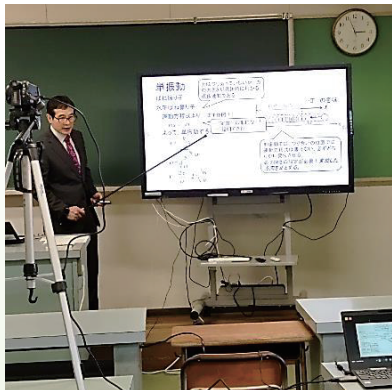


「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革
推進事業（学びの機会の充実ネットワークの構築）」
（熊本版COREハイスクール・ネットワーク事業）

研究開発実施報告書（2年次）



熊本版CORREハイスクール・ネットワーク事業

地域の高等学校における「教科・科目充実型」の遠隔授業の充実、学校間連携の運営体制の確立、地域との協働を通じて「多様な学びの中で、地域の資源を発掘し、活かし、地域に貢献できる人材の育成」や、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現する。

目的

現状

- 熊本市内への人口一極集中（県民の約43%が熊本市民）
 - 地域の活力低下
 - 若年層人材の流出
- 地域で学ぶ強みを理解しながら新たな資源を発掘し、生かしたり、新たな魅力や価値を創造できる人材育成が求められている。

1. 遠隔授業に関する取組の概要

- ・ 第一高校（第一高校教諭）や、県立教育センター（近隣の県立高校に配置されている教諭）を主たる配信拠点とした遠隔授業の実施
 - …習熟度授業、発展的科目、専門教科科目、実技系科目の試み等
- ・ 県内（熊本、阿蘇、天草、人吉球磨、あらたま地域）を一体化した地域課題解決のための探究的な学び（くまモン（熊本の人）プロジェクト）の実施…KSH（熊本スーパーハイスクール）とのリンクによる成果発表等
 - ・ 構成校を一体とした、きめ細かな進路指導の実現
 - ・ 県内全域に遠隔授業の普及・促進を図り、高等学校教育の充実を図るための成果発表会の実施
 - ・ 令和9年度からの配信センターの運用に向けた準備



2. 通信教育に関する取組の概要

- ・ 長期休業中における教育課程外での集中講座の実施
- ・ 先進県視察を通じた情報収集及び通信教育における生徒のニーズ把握

3. ネットワークを構成する学校

熊本県立第一高等学校、熊本県立小国高等学校、熊本県立牛深高等学校、熊本県立球磨中央高等学校、熊本県立岱志高等学校、熊本県立教育センター

熊本版COREハイスクール・ネットワーク事業



育成を目指す資質・能力

- ・地域課題等の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、地域課題等の解決に向けた学びの意義や価値を理解するようにする。(知識及び技能)
- ・地域社会や地域の生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・地域課題解決に向けた取組に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

主なアウトプット(活動目標)

- ・遠隔授業受講者(受信側)の大学進学率を確認することにより、遠隔授業の学習効果を確認し、学びのPDCAサイクルの確立と学習向上に向けた取組を支援する。
- ・各県立高校(他県管理機関等含む)が成果発表会に参加することにより、本県で実施している遠隔授業及び通信教育への理解を深める。
- ・ネットワーク構成校以外の生徒にも通信教育(教育課程外での集中講座)をとおして、遠隔授業の学びを提供し、生徒の学力向上につなげる。

委託期間終了後の見通し

- ・学校間連携の良さを残しながら、配信センターを拠点として、地域で多様な教科・科目を学ぶ遠隔授業を全県的に拡充する。
- ・県内各地の生徒のニーズに応えることができる通信教育の体制づくりを構築し、地域の高校での学びの充実を実現する。

主なアウトカム(成果目標)

- ・ネットワーク構成校の遠隔授業受講者(受信側)の大学進学率の向上を図る。(令和6年度実績37.5%)
- ・遠隔授業に係る成果発表会(公開授業を含む)に参加した高校(他県管理機関等含む)の数を35以上にし、遠隔授業の普及・促進につなげる。
- ・長期休業中に教育課程外で生徒のニーズに対応した集中講座を実施し、生徒の学力向上を図る。
- ・熊本版COREハイスクール・ネットワーク構成校及び遠隔授業の実施教科・科目数を拡充する。

巻頭言

令和6年(2024年)4月、文部科学省の「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業(学びの機会の充実ネットワークの構築)」に熊本県教育委員会が採択されました。

本県では、令和3年度(2021年度)から5年度(2023年度)までの3年間、「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業(COREハイスクール・ネットワーク構想)」の中で、「教科・科目充実型」の遠隔授業の充実、学校間連携の運営体制の確立、地域との協働を通じて、「多様な学びの中で、地域の資源を発掘し、活かし、地域に貢献できる人材の育成」や、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現するための事業展開を行ってまいりました。

令和6年度(2024年度)からは「熊本版COREハイスクール・ネットワーク事業」として、令和5年度(2023年度)までの3年間の取組を継続・発展させるとともに、令和9年度(2027年度)以降における配信センター設置の検討など、県内全域にネットワークを拡充する方向で取り組むために、事業体制を整え、本事業を推進しています。学校間連携をととした遠隔授業や探究的な学びを行うことは、生徒同士の新たなコミュニケーションの場の創出や学習意欲の向上、進路選択の幅の拡大など、生徒にとって大きな学びにつながっています。

一方で、配信校と受信校における時程や行事日程の調整、教育課程の編成など、構成校の負担は依然として大きく、学校間連携による課題も多く見えてきました。今後、こうした課題に対応するために、配信センターの設置が急務であり、令和9年度(2027年度)からの配信センターの運用に向けて計画を進めているところです。

「熊本版COREハイスクール・ネットワーク事業」においては、指導・助言をしていただいた運営指導委員の先生方、各地域のコンソーシアムの方々に支えられ、本庁関係課の協力のもと本年度の事業を推進することができました。そして何よりも、ネットワーク構成校である第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校、岱志高校の各学校や県立教育センター、鹿本高校や八代高校の配信担当教諭等、事業に携わっていただいた多くの方々の尽力があります。その方々の御理解と御支援があったからこそ、生徒の皆さんの夢の実現に向けて新しい学びの創出ができたものと考えます。心から感謝いたします。

本書には、今年度の取組や考察と共に、「熊本版COREハイスクール・ネットワーク事業」に関わっていただいた方々の様々な成果物を掲載させていただきました。本書をご覧いただいた皆様の参考になれば幸いです。

今年度で本事業は終了しますが、この5年間で積み上げた成果・知見は、本県の教育における「財産」です。来年度以降は、遠隔授業を引き続き行いながら、子供たちの豊かな学びを支える基盤として定着させていく所存です。

最後になりましたが、改めて、「熊本版COREハイスクール・ネットワーク事業」に対して、多大なる御支援・御協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、本書をご覧いただいた皆様から多くの御助言をいただけることを期待しまして、巻頭の挨拶といたします。

令和8年3月

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課
課長 横川 修

もくじ

巻頭言

もくじ

1.	事業概要	1
1.1.	本事業に取り組む課題と目的	
1.2.	本事業を通して明らかにしたい事項	
1.3.	ロードマップ	
2.	遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組	12
2.1.	調査計画	
2.2.	実施体制	
2.3.	取組概要	
2.3.1.	遠隔授業実施表	
2.4.	取組内容	
2.5.	考察	
2.5.1.	成果と課題	
2.5.2.	今後の方策	
3.	通信教育の実施やその運営体制に関する取組	62
3.1.	調査計画	
3.2.	実施体制	
3.3.	取組概要	
3.3.1.	通信教育実施表	
3.4.	取組内容	
3.5.	考察	
3.5.1.	成果と課題	
3.5.2.	今後の方策	
4.	まとめ	72
5.	本事業の成果と課題を踏まえた今後の方向性	73